

# SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

# われら同胞

NO. 33

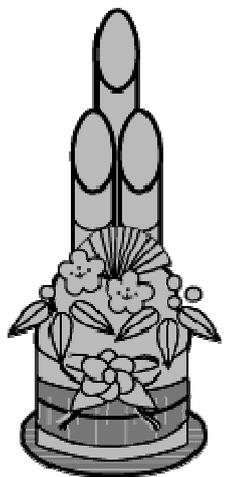


☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 巻頭言
- 3 p プラッツ旅行
- 4 p 第26回精神保健福祉講座報告
- 5 p 実習生感想リレー
- 6 p 賛助会コーナー

# 謹賀新年

はらからの家福祉会 理事長 須長 靖夫



旧年中は、当法人に対しましてひとかたならぬご支援を頂き誠に有り難うございました。お陰様で当法人の職員並びに関係者一同つつがなく新年を迎えることができ、心より感謝申し上げます。

新年の門出にあたり、当法人の事業計画などについてお話しをしたいと思います。先ず、かねてより重要課題として市行政をはじめとする関係機関と協議を重ねて参りました、事業移行についてご報告をさせていただきます。

これまで2カ所あった共同作業所「さつきと第2さつき」をどのような障害福祉サービスに移行していくかという事です。精神障害者の地域での生活支援機能を質量共に拡充していくことを念頭に、また利用者者の増加も考慮して、今後の展開を以下のように総合計画

として定めました。

さつき・第2さつき共同作業所は「就労継続支援 B型」と自立訓練「生活訓練と訪問訓練の組み合わせ」いわゆる多機能型の事業へと移行します。実践の形態としては、医療との協働や「出向・アウトリーチ実施」の更なる展開であり、とりわけアウトリーチは国分寺市障害者計画114番「早期発見・早期支援」に沿った事業展開といえるものです。私たちはこうした国分寺地域における地域精神保健福祉を具体化する移行後の事業に「相応しい場・適正な場を確保」しながら、計画を着実に実施していきたいと願っています。移行とともに、地域生活支援センター(1型)「地域生活支援センタープラッツ」に新規登録し、新たにご利用頂く方も更に増えるでしょう。

実はここで、明らかにしてお

かなければならないことが一つございます。

それは私たちが1999年平成9年4月1日に「地域生活支援センタープラッツ」を開設し、「相談支援」を始めて以来「相談支援」を始めて以来「活動現場の狭隘問題」がございました。事業を必要に応じて展開していくための「適正な場の確保」を担保しない限り、日常の業務にも支障をきたしてしまいます。また事業移行後の福祉サービスの提供についても非常に厳しい状況になってまいります。

今回の移行に関しての「適正な場の確保」はこうした「狭隘問題」と重なり、何としても早急に解決をしなければならぬこととして私たちの前に大きく横たわっております。

私たちはこれまで要望書という形で、移転による適正な広さを確保することが最善の

方法である」とした提案を国分寺市に行っているところで

す。新年の門出に当たる話としては甚だ厳しいものになってしまいました。昨年開催されました第2回「精神保健福祉講座」は、東日本大震災からの「地域再生に学ぶ誰もが暮らしやすい地域づくりを、みんなで作ろう！」と特別な思い入れを持つテーマに沿った新しい試みを致しました。

辰年を迎えるに当たって今置かれている状況と抱えている問題を明らかにし、以って皆さまのご理解とご支援を得つつ、新事業計画の着実な展開に向けて、私ども一同改めて決意を固めている次第でございます。

本年もどうかご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



J R 青梅線



国分寺スタート



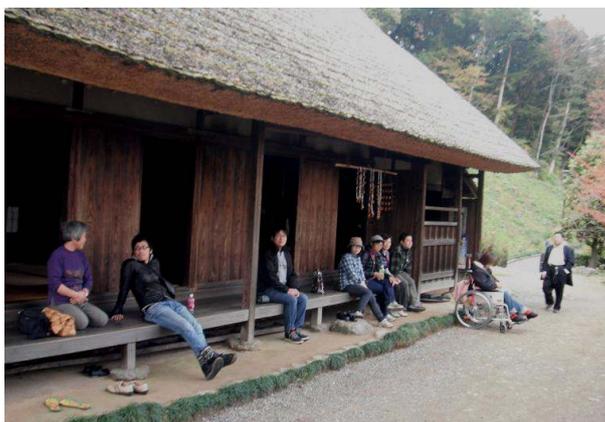
かんぽの宿青梅



フラ  
ツツ旅行  
ぶらり青梅の旅



デュエット曲は？



古民家でのんびり



自然がいっぱい！

## 第26回 精神保健福祉講座報告

はらからの家福祉会 理事長 須長 靖夫

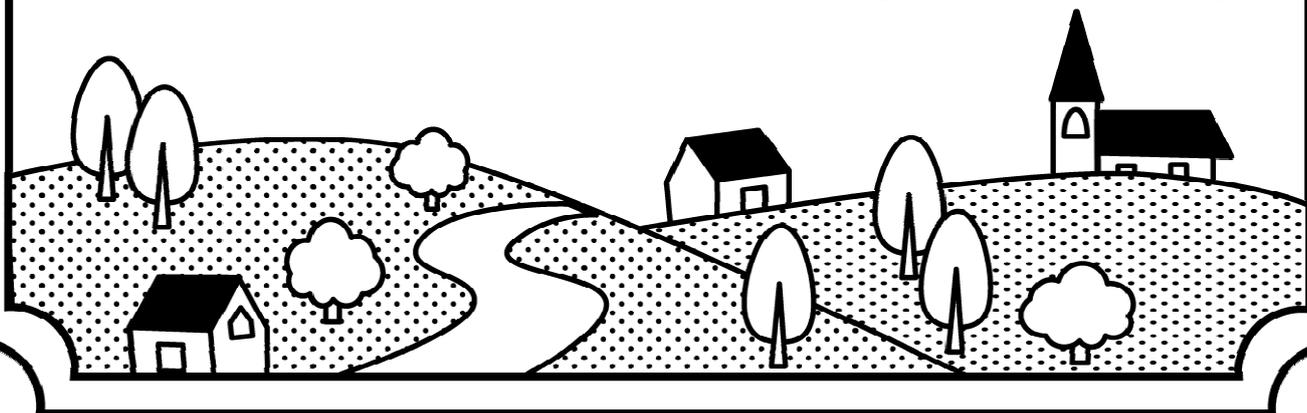
平成2年12月22日(木)午後6時から9時にかけて、国分寺市立いずみホール(Aホール)で第26回精神保健福祉講座が「東日本大震災を見つめて精神保健福祉の再生と新生」として、今何が出来るか考えよう!というテーマで開催されました。

3月 日に起きた「東日本大震災」では、被災地の悲惨な生活実態を救う有効な施策も無く、迅速な地域作りへの道も遅々として進まず、結果として国の無力、無策ぶりが目立ちました。一方では日本中に広がった支援の輪が幾つもある出来、絆の大切さや連携の強さも求められました。最終的に日本国民の持つ温かい思いやりが再認識されたと思っております。

「精神」の方では特定非営利活動法人 全国精神保健福祉連合会(みんなネット)が「当事者と家族会」に直接義援金が入るように現地に銀行口座を設けたり、NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)が【緊急要請】として募金口座を設け、支援の手をさしのべました。

こうした日本の状況を背景にした今回の講座は、振り返りと同時に次のステップへ進めていくにはどうしたら良いか、被災地のみならずより広い視野に立つテーマとしてとても有意義なものであったと思っております。

精神保健福祉における「地域福祉」は昨年に続き2回目ですが、今回は福島に迫り、そこから見えてくるものから「誰にとっても暮らしやすい地域」をどう作って行ったら良いのかをテーマにしました。今後は、市民として考えざるを得ないことになると思います。講座は二部構成からなり、第一部は丹羽真一氏(福島県立医科大学医学部教授)による「福島版ACT構想について」でした。第二部はシンポジウム・意見交換で司会を伊澤雄一氏(はらからの家福祉会施設長)、シンポジストは坂田晴弘氏(国分寺市障害者センター施設長)、山田正則氏(国分寺地域活動連絡会 民生児童委員)、牛田純一氏(国分寺市社会福祉協議会)、西村隆夫氏(多摩総合医療センター精神科医)、助言者として丹羽真一氏(前出)の各氏がそれぞれ参加されました。



約二週間の短い実習期間でしたが、複数の事業所で実習させていただき、精神障害を抱える方々の地域生活を支える様々な社会資源や取り組みを概観ながら学ぶ事が出来ました。それらの事業で共通していた事は、当事者の方々が持っている能力の回復を指し、自らの生活をコントロール出来るようにするエンパワメント支援の実践でした。私が福祉分野で従事する中で当事者の方々の自立をどう捉え、それにどうアプローチし、どうサポートするかを考え、今後実践していく為に、とても貴重な体験をする事が出来ました。

日本社会事業大学 山里 昌聖

今回、はらからの家福祉会で、プラッツやさつき作業所、グループホームなど様々な場所で実習させて頂きました。

皆さんとても温かい雰囲気での生活のこと思っていることなど聞かせて頂きとても勉強になりました。実習中、私が山内さんに似ていると何人もの方から言われ、ご本人と対面した時はとてもドキドキしましたが、他人と思えない親近感を勝手に感じてしまいました。皆さんとの会話はとても楽しかったです。

これからも地域の一員としてはらからの家福祉会を応援していきます。

日本社会事業大学 関根 睦子



月に実習生としてお世話になったサワチです。オーバーエイジ実習生にメンバーの皆様も少し戸惑われたようですが、温かく迎えて戴きどうもありがとうございました。

メンバーの皆様が経験されてきたお話を伺って一番の驚きは、ご自身の困難な状況や戸惑いを冷静に捉えて淡々と話されることでした。ご自身の経験を客観的に判断されるまでには、多くの悩みや苦悩の日があったと想像致しますが、それらを受け容れて冷静に対処されてきたから、淡々と語り日々の生活を楽しまれられることと思えました。

メンバーの皆様から教えて戴いた、困難な状況があるがままに受け入れる姿勢を忘れずに、今後もワクワクドキドキしながら毎日を過ごしたいと思えます。

お忙しいところお世話頂いたスタッフの皆様と、貴重な経験をお話し戴いたメンバーの皆様どうもありがとうございました。

日本社会事業大学 澤地 昭彦

私にとってのはらからの家福祉会での実習は、時に驚き、時に悩みながら自分と真剣に向き合う契機となりました。

実習中は温かく穏やかな利用者の皆さんに囲まれた中で、忙しくも充実した学びの日々でした。そしてそんな皆さんとの関わりを通して、今まで自分の中にあつた固定観念を、少しずつですが柔軟にほぐしてゆくきっかけをつかむことができたように思います。

利用者・スタッフの皆さん、短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

立教大学 谷平 健人

# はらからの家福社会賛助会コトナ

はらからの家福社会賛助会は、社会福祉法人はらからの家福社会の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。

当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞(本誌)」を送付しているほか、年に一度懇談会を開催し、会計報告・活動報告を行っております。皆様の会費は毎年取りまとめてはらからの家福社会に寄付させていただきます。

入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込ください(同封の振込用紙も使えます。)

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費を納入いただいた方の名前を本誌に掲載させていただきます。匿名希望の方はその旨通信欄にお書きください。



## <平成23年度8月から10月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

浅田 基夫 石井 正義 石倉 菊子 伊藤 善尚 伊藤 義明 上原 愛子 江口 八重子 河崎 弘太郎  
 植村 雅子 大野 英子 岡崎 篤生 小川 好秀 落合 利彦 上柳 喜一 田辺 小夜子 野々瀬 悟子  
 川副 泰成 久慈 京子 熊谷 禮子 窪田 恭 小林 和代 小峰 尚三 服部 百合子 福成 恵美子  
 小宮 敬子 小宮 弘隆 近藤 節朗 坂田 晴弘 佐藤 和正 佐藤 佳子 藤野 利太郎 松本 紀久代  
 正田 正子 須長 靖夫 高木 健二 高相 健一 高見 法孝 高山 俊子 湯本 美江子 渡辺 千代子  
 丹野 章子 辰田 智子 戸部 光榮 長澤 則子 浜野 信一 春口 明朗  
 藤田 英親 藤田 綾 峯岸 桂一 宮城 伸子 宮澤 紘一 森田 林三  
 山田 正則 吉田 ユキ 匿名3名

むさしの国分寺クリニック フレッシュショップコサカ 小平神明宮 関東観光社



### 【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会  
〒185-0021  
東京都国分寺市南町 3-4-4  
TEL 042-323-5637

### 【発行人】

身体障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073  
東京都世田谷区砧 6-26-21

【定価】 ¥120